

こうやさんちょういしみち

世界遺産・高野山町石道を歩く

3月下旬、気温の上下動は激しく、サクラが一気に咲きだした。

3月28日朝、起床時には雨が降っており、出かけようか、どうか少しためらったが、6時45分バイクでJR五位堂駅に向かい、7:15 発和歌山行き普通列車に乗車。橋本駅で南海電鉄高野線に乗り換え。

軋みながら走る高野鉄道

9:16 発高野山行きの電車はギューーン、ギューーンと重い軋み音をたてながら山の斜面をゆっくりと昇っていく。沿線の人たちはこの音を毎日、何回も聞きながら生活しているのだ。

人里にも山道にも早春の花々

9:41 ^{かみこぎわ}古沢駅下車。この無人駅は集落を見下ろす崖の途中にある。集落に降りる道は一人通れるだけの急な道。雨に濡れた道を手すりにつかまりながら降りるが、道端の斜面に早春の花々が咲いている。オオイヌノフグリ、ヒメオドリコソウ、ジロボウエンゴサク、ムラサキケマン、ミツバアケビ等々。谷底の橋を渡り、向かい側の集落の道を昇る。こちらも急坂。途中で振り返ると、対岸の急斜面に、小さな駅舎が貼りつけられたように見えている。

やがて杉林の中の山道に入る。道端にはショウジョウバカマが点々と見えるが、多くが花期を終えている。途中で雨が降り出した。昇りが続くが、所々林が切れて、柿畑がある。この辺りは富有柿の名産地だ。



↑ムラサキケマン

高野山表参道・町石道

11:50 古峠着。2時間弱かかって、やっと町石道に合流。石柱に刻まれている数字は百二十三。この道は高野山を開創した弘法大師(空海)が表参道として開き、1町(約109m)ごとに卒塔婆を建てて道しるべとした。現在は立派な石柱が180カ所設けられており、参詣者はこの石柱を拝しながら昇るといふ。吉野山から

↓古峠の辻

熊野本宮への奥駈道と共に世界遺産に登録されている。

町石に励まされつつゆっくり下る

倒木に腰かけて昼食を摂り、12:15 慈尊院に向けて下りはじめる。風が出てきたが、杉林の中の緩やかな尾根道で、雨も風もあまり気にならない。町石を確認しながら、順調に歩く。

六本杉の辻で、道は右に曲がり、やや急な坂道を注意深く下る。町石の数字は百三十七。林の中をさらに下る。途切れることなく設置されている町石は確かな道標で、同時に疲れた歩行者への何よりの激励。

やがてJR和歌山線を走る列車の音が聞こえ始め、畑地の中を歩くようになる。道端の雑木に絡まってゴヨウアケビの花が沢山ぶら下がっている。



↑立派な町石



↑ジロボウエンゴサク





町石道の終点・慈尊院

15:00 ようやく慈尊院に到着。町石の数字は百八十。この寺は弘仁7年(816年)弘法大師が高野山の表玄関として創建。大師の母公・^{たまよりごぜん}玉依御前の霊も安置されている。“女人高野”と呼ばれて「子宝、安産、育児など」の願いを込めて乳房型絵馬(写真下・同院 HP から)が奉納される。

町の名の由来

高野山は女人禁制だったため、弘法大師の母は、この地に住んで大師を支え、大師は月に九度ここまで降りてき



↑ 慈尊院の多宝塔 母に会ったと言われ、それが九度山町の名の由来とされている。確かに歴史を感じさせる道であったが、時節柄か花は少なかった。

二上山にも町(丁)石が残っている

前号の音羽山観音寺にも、伊勢の朝熊山にも道標としての町(丁)石が設置されていた。それら程立派ではないが、二上山にも町(丁)石道があり、いくつかの石柱が現在でも残っている。



↑ アケビの花

① 加守・二上神社から雄岳への道

二上神社の横を通って雄岳山頂まで続く登山道。その入り口に「是ヨリ二上山道」と彫りこんだ石柱がある。そして沿道にいくつかの丁石が残っている。

山頂の天津皇子の墓所(伝)直下に「十七丁」の丁石(写真左)があるので、おそらく17~18カ所に設置されていたと思われる。現在7個ほどが確認できる。

起点は二上神社か

この二上神社は雄岳山頂にある葛木二上神社と一体のものとして(當麻町史)二つの神社を結ぶ参詣道としての丁石道だったろう。また二上神社のそばには古くから加守寺(加守廃寺)があって、その跡地で発掘された六角堂跡は「天津皇子の靈魂を弔う廟」跡地と考えられ

(小笠原好彦「奈良の古代仏教遺跡」)ることから、“天津皇子信仰の道”の意味も持ったのではないか。

② 香芝市畑からの道

もう一つは香芝市畑からの古い登山道だ。現在の上之池登山道は、池の西側を昇っていくが、昔の登山道は池の東側からのルートとして残っている。このルートは西側からの道と、その6合目手前で合流し、さらに7合目付近で加守からの道①と一つになる。現在の道と合流するまでは廃道同然で歩きにくい、2~4丁目の丁石が残っている。

畑からの道の丁石⇒

※雨乞いの道でもあった

降水量の少ない大和盆地では多くのため池が造られたが、雨乞いの行事も各地で行われ、その一つが「二上山への岳のぼり」として、今も毎年行われている。

